

米国に学ぶ職場・学校等での銃乱射事件対策



株式会社ジェイ・エス・エス
危機管理コンサルティング事業本部
課長・コンサルタント **和家麻子**

世界のどこで起きても不思議ではない銃乱射テロ対策を考える上で、米国の公的機関などによる公開情報を役立ててみてはどうだろう。

誰にでも起こり得る身近なリスク

米国では今年2月にフロリダ州の高校で銃乱射事件が発生して17人の命が失われたほか、4月にはカリフォルニア州の「YouTube」本社で銃乱射事件が起き、3人が負傷した。こうした事件を受けて、銃規制に関する議論が再び盛り上がっている。

日本とは比較にならないほど銃が社会に広がっている米国では、米連邦捜査局(FBI)はじめ各地の法執行機関が銃乱射事件への対応策を市民に啓発するためのリーフレットや動画を制作し、公開したり、職場・学校等での防災訓練ならぬ銃乱射対応訓練を実施したりしている。

インターネットで“Active Shooter”や“Lockdown Drill”などのキーワードを検索すると、こうした公開情報が無数に見つかる。米国社会が銃乱射事件をどこでも、誰にでも起こり得る身近なリスクと捉えていることが分かる。

公開情報活用のすすめ

一連の資料は米国への駐在員や留学生のみならず、世界のどこで起きても不思議ではない銃乱射テロ対策を考える上でも参考になる点が多く、企業の危機管理担当者や子女を海外の学校

に通わせる予定の駐在員家族などにとっても有用と考える。

本稿では無数にある公開情報の中で、特に日本企業にとっても活用可能と思われるいくつかの資料と動画を手短な解説とともにご紹介する。なお、ご紹介する動画の内容は全てフィクション(ドラマ)であるが、一部ショッキングな映像も含まれる。また、リンク先のウェブサイトが消失する可能性についてもあらかじめご了承ください。

(1) オンライン・トレーニング

「銃乱射事件：あなたにできること」

米国土安全保障省の一機関である「米国連邦緊急事態管理庁(FEMA)」が提供するウェブサイト上で受講可能なトレーニングコースである。動画や記事で主要なポイントを学んだ後にクイズ形式の質問に答えて理解度を確認しながら、銃乱射事件への対応や心構えを学ぶ。前半にヒューストン市制作の動画『RUN、HIDE、FIGHT(逃げる、隠れる、戦う：銃乱射事件で生き延びるには)』を視聴して緊急時に採るべき行動を学び、後半は平時における備えと訓練の重要性などを学ぶ。所要時間の目安は45分となっている。無料で受けられるので、特に米国駐在員には一度目を通しておくことをお勧め